

【用語】一統—一同 下落—物価・相場などが下がること 抱拔—独占する 難渋—物事が進まないこと 無坳—やむなく、余儀なく 目方—物の重さ、重量 上下—往復 左候得者—そのようであれば 外聞—世間の聞こえ、評判

【解説】利根・吾妻地方で栽培された煙草は「沼田煙草」の名で知られ、高崎の「館^{たか}煙草」と並んで江戸でかなりの需用があったといわれる。一八世紀半ば以後、生産は一段と進み、中小の仲買人を含む在方の煙草商人が多数あらわれ、文久元年（一八六一）には沼田煙草商人仲間は一八八人にもものぼった。集荷された煙草は、荷主たちにより大部分が江戸へ移出されたが、農村部の需用の増大などに伴い、前橋・玉村・伊勢崎・柴宿などの市場でも活発に取引きされるようになった。

この文書は、目立ってきた煙草の品質下落や目方の不揃いなどに対処するため、商人仲間が取り決めた作人への制裁規定を通達したものである。煙草商人仲間のなかには元買出し方と呼ばれる商人と仲買人的な下方という商人が存在していたことや、文書の宛名が森下村の村役人であることから、煙草栽培が村の重要な産業であったことをうかがい知ることができる。